

# 国 語〔問 題〕

(100点・70分)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見たり、裏返したりしてはいけません。
2. この問題冊子は29ページあり、解答用紙は1枚です。  
試験中に問題冊子・解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 試験開始後、ただちに解答用紙の所定記入欄に、氏名・受験番号・誕生日をそれぞれ正しく記入し、さらに受験番号・誕生日をその下のマーク欄にマークしなさい。
4. 受験番号・誕生日が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄に各設問で指示された方法で記入しなさい。  
マーク方式は、例えば、

20
----

と表示のある問いに対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号20の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
20	① ● ③ ④ . . . . .

6. 問題冊子の余白等は、下書きなどに適宜利用してよいが、各設問で指示された解答は、必ず解答用紙の解答欄に指示された方法で記入しなさい。
7. この時間は「数学」または「国語」の選択科目となります。メディア情報学部情報システム学科を受験する場合は必ず「数学」を選択して解答しなさい。
8. 試験終了後、提出は解答用紙のみとし、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 第一問

次の文章は哲学者の大森莊蔵が一九七一年に書いた文章である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ロボットには意識があるのだろうか。この疑問は、月には水があるのだろうかとか、ミミズにも心臓があるのだろうかとかいう疑問とは根本的に違っている。というのは、水のあるなし、心臓のあるなしを判定する方法があるのに対し、意識のあるなしをどうしてきめるのか、そのきめ方がきまっていないのである。もし、意識のあるなしを判定する方法が通常の科学的手順で与えられているのなら事は簡単で、このような疑問にはとくに答えが得られているはずである。たとえば、ある性質をもつ脳波のあるなしで意識の存否をきめるのであるのなら、電子部品からつくられたロボットは検査をするまでもなく意識をもたない。「脳」波がないからである。そのときもし、「脳」の定義を拡張してある種の回路も脳と呼ぶのなら、その「脳」を脳波検査器にかければよい。要求どおりの「脳波」があればそのロボットには意識があるのだし、なければ意識がないのである。

だが、問題はそのような手軽な判定方法に満足できないことから出てくる。たまたま、われわれ人間が生きているときには脳波があるが、「意識」は脳波などとはまったく違う、少なくとも脳波などでは尽くされない何ものである、こういう感じから問題が出てきているのである。

**A**、この意識たるやそれをどうとらえてよいのかわからない。

いま、非常によくできたロボットを想像してみよう。ほほ人の形と動作に近く、口もきければ笑いもする。応答もまず人なみ、<sup>1</sup>はにかみもすればおこりもする。大学にもなんとか受かって喜びもする。ただその内臓と神経組織は人とは似ても似つかぬ構造で、ある設計図に従って組み立てられたものである。つまり、このロボットは人間とほぼ似た「意識ありげな」振舞いをするが、そのからくりは人間とはまったく異なっている。こういうときにさきの疑問が発せられる。意識ありげな振舞いをするが、はたしてほんとうに意識があるのか、と。この疑問の核心は、この「ほんとうに意識がある」ということで何を意味してよいのが定かでないところにある。したがって、問題は、「意識がある」とはいったいどういうことなのか、ということになる。

ここに、この問題と並行的に、そしてこの問題に示サ<sup>a</sup>を与えると思われるいま一つの問いを立ててみよう。すなわち、このロボットは「生きている」か、という問いである。このロボットは文句なく「生き身の」振舞いをするが、「ほんとうに命がある」のか、という問いである。ここでも、この問いの核心は「生きている」ということで何を意味するか、である。ピールス<sup>注1</sup>は「生きている」か、すなわち、ピールスは生物か、というよく知られた問いもこれとまったく同じ根をもっていることは明らかであろう。

さて、生物を生物たらしめているのは、生物がたとえばエンテレヒー<sup>注2</sup>だとか命の素だとかをもっているためではあるまい。そのようなものは存在しない。それらの存在を確かめる手段が提出できないからである。では、生きている猫と死んだ猫とを区別するものはなんだろうか。もちろん無数にあらう。心臓の動き、神経のパルス、物質代謝、体温、四肢の動き、呼吸等々。これら無数の現象の総体<sup>2</sup>が、生きた猫と猫の死骸とを区別する。とすれば、猫の生死を分かつものもこれら無数の現象の総体という以外にはない。

**B**、これらの現象は相互に密接に関連しており、その一部が変化すればすべてがその影響をこうむる。なかんずく、たとえば心臓がとまれば通常は他の現象もとまる。そこで、生死の分別の通常の指標として心臓の動きをとることができる。しかし、それはあくまでいちおうの指標としてであって（脳波による脳の判定もまたいちおうの指標である）、生死を区別するのは現象の全体なのである。心臓をとめても人工心肺で血流を維持されている猫はやはり「生きて」いるといわなければなるまい。

このような現象の総体が猫の生死を分かつとすれば、猫が「生きている」とは、その現象の総体を意味しているのである。つまり、猫が「生きている」とは、食べ、動き、眠り、呼吸し、消化し、血がめぐる等々の全体を意味している。それが、猫の生命であり、猫が「生命をもつ」ことなのである。

しかし、この猫の生命は猫特有の生命だといわなければならない。猫特有の「生き方」なのである。とすれば、それとは違った鼠<sup>ねずみ</sup>特有の「生き方」、うなぎ特有の「生き方」、いなごに特有な「生き方」があることになる。さらに植物に目を向ければ、梅の「生き方」、きのこの「生き方」、苔<sup>こけ</sup>の「生き方」があるはずである。これら千差万別の「生き方」に共

通な何ものか、それが、「生命」であるといいたくならう。C、教科書は、運動、代謝、生殖、というような共通項目をあげ、それが「生命」の特性だという。しかし、このような共通項目をあげても、それは単に無数の「生き方」を大別してその分類題目を掲げただけのことである。運動といっても、再び猫の運動、うなぎの運動、いなどの運動等の千差があり、生殖といっても、猫の、梅の、苔の、といった万別の態があることにはなんの変わりもない。DNA連鎖にも生物の数だけの差異があるはずである。

さらに、生命の様式には限りのない変化がある。一つの細胞が「生きている」生き方、細胞の核が「生きている」生き方、その核の膜が「生きている」生き方、あるいは極端には一つの蛋白質分子が「生きている」生き方、それらは千変万化する生き方ではあるまいか。これらの数限りない多様な「生き方」の総体が「生命」と呼ばれるものではなからうか。

ちように、一匹の猫の無数の現象がその猫が「生きている」ことであつたように、多種多様な動植物やその細胞の構成部分のそれぞれに異なる「生き方」の総体が「生命」なのである。この総体の境界を明確に引くことはできないし、また引くべき理由もない。ここからこちらが「生きており」、そちらは「無生」だとする、そのような境界線を引く根拠はないと思われる。もちろん、定義的に、人工的に、そういう線を引くことはいつでもできる。だが、なぜそこに線を引いたかの明確な根拠を与えることはできないだろう。

夜はいつとはなく白み明けて朝になる。猫は**ゼン次**に死んでいく。夜と朝を明確に分け、猫の生死の境を明確に分断することは、ただ定義によってのみ可能なのである。生命と無生の間にも確然とした国境線があるわけではなく、夏がふけて秋になり、子どもが育つて青年になるように、きれめのない連続的な移行があるだけである。われわれの手の表皮はいつから死んだといえるだろうか。

しかし、だからといって生死、生無生、の区別がいつさいつかない、というのではけつしてない。陽が高く昇った午前一〇時は明確に夜ではないと同様、路傍の石は明確に無生の物である。明確な分別線が引けないからといって、その区別が成り立たないとはけつしていえない。われわれの日常生活での区別のほとんどすべてがこの境界のぼけた区別であるこ

とを忘れてはならない。およそ形態（ゲシユタルト）といわれるものの間の区別は、すべてこの境界のほけた区別なのである。そして「<sup>3</sup>生きている」ということもまた一つのゲシユタルトなのである。さらに、この「生きている」というゲシユタルトは一つの特徴をもっている。ここ数年、アメリカや日本で問題になっているコングロマリット（異種企業結合体、または複合企業）の名をかりて、コングロマリットのゲシユタルトとも名づけられる特徴である。すなわち、右に述べたように、猫、梅の木、うなぎ、その他さまざまの異種な「生き方」が複合したものが「生きている」というゲシユタルトなのである。しかし、コングロマリット企業はその中に、まったくかけ離れた業種を資本のつながりだけでとり込むのに対し、「生きている」ことのゲシユタルトはさまざまな類似性を通して異種な「生き方」を一つの網の目に結びあげる点が違っている。

猫の生き方と犬の生き方にはある強い類似性があるが、一方、猫の生き方は犬との類似性とは異なる類似性でたとえば蝶の生き方に似るのである。また、それらとは異なった類似性で、蝶の生き方はたとえば貝の生き方に似ている。このように、さまざまに異なる類似性を通してさまざまに異なる生き方が縫いあわされたものが「生きている」というゲシユタルトなのである。またそれが「生物」のゲシユタルトでもある。けっして何か「生きている」ということの刻印、「生物」の刻印というものがあって、その刻印をもつかもたないかで生きているかいないか、生物か無生の物が区別されるのではない。前にも述べたように、そのような、「生きている」ことに共通な刻印、すべての「生物」が共有する刻印、というものを考えても、それは単に大項目の標題のようなものであり、その標題でおおわれるさまざまな異質な要素はものままにあるのである。コーラル牧場の牛の共通の性質は何か？ コーラル牧場の焼印がおされていることである。この答が何程のことをわれわれに教えるだろうか。

以上で述べた二つの事情、すなわち、「生きている」ことはコングロマリットのゲシユタルトであることと、その境界が定かではないこと、この二つの事情によって、はじめの疑問、ロボットはたして生きているか、あるいはまた、ピールスは生物かという疑問が生まれてくる。すなわち、ロボットやピールスをこのゲシユタルトの中に含めて「生きてい

る」といつてよいかどうか、という疑問である。ビールスは宿主細胞の中ではまぎれもない生物的振舞い、他の生物につながる形で代謝と増殖をするが、細胞外で待機中の結晶は無生物の様態を示す（しかし数千年の間、発芽を待機した大賀蓮の種子は生物だとされる）。ロボットはその応答や全身的振舞いは「生きている」さながらであるが、その内臓の振舞いは電子回路の振舞いに酷似する。つまり、ビールスもロボットも生きているともいえるし、生きているともいえる。生きているといいかねるし、生きているともいいかねる。われわれにその決断がつかないのである。

もし、この決断がつくとすれば、それは何か決着をつける理屈によってであろうか。そうではない。なぜならば、そのようないずれともつかぬビールスやロボットを「生きている」というコングロマリットのゲシュタルトに含めるか含めぬかは、いかだを船に含めるか含めぬか、トマトを野菜に入れるか果物に入れるかという場合とまったく同様に、われわれにまかされている問題だからである。われわれの判決にまかされているのである。もちろん判決には判決理由がある。しかし、決定的にこうでなくてはならないという基準なり判別方法があるのではない。ビールスやロボットを「生きている」としたほうが自然だというさまざまな理由があり、また、「生きている」とするさまざまな理由がある。しかし、そのいずれかにしなければならぬという決定的基準はない。さらに、どちらかの判決を採択しなければならぬというでもない。みぞれを雨であるか、雪であるか、どちらかにきめなければならぬものではなく、そのいずれでもない「みぞれ」とするように、いわば判決をリユウ保して、ビールスやロボットは生きているのでもなく生きていないのでもなく、第三の様態をもつとしてもよいのである（ただ「半死半生」の様態ではないが）。

そして、その様態を、ビールスの生命なり、ロボットの生命と命名し、本家の「生きている」ゲシュタルトに対し、その分家的なゲシュタルト、子会的なゲシュタルトを創立してもよいのである。そうするか、またはそうしないで、それらを本家の「生きている」ゲシュタルトの辺境としてそれに吸収併させるか、あるいは「無生」のゲシュタルトに含ませるか、それはわれわれの判決にまかされている。そのいずれを採択するかが人によって相違したところで、混乱も矛盾も起こらない。それは、ビールスやロボットがいかなるものであるかの知ケンに、なんの相違をもたらすものでもなく、

ただ異なる理由によつて異なる分類をするだけのことだからである。

こうして、「ロボットははたして生きているのか」という問いに問題があるとすれば、それはこの問いが純正な問い、イエスカノーかが一意的に与えられるはずの問いだと思ひ込まれていたことから生じる。この問いは、「金星にははたして磁場があるか」とか、「血液ガンはビールスによるものか」という問いのように、きつぱりイエスカノーをきめる判定方法がある問いではない。それはむしろ、「ガラスは固体か液体か」とか「光は波動か粒子か」という問いに類するものなのである。この種の問いは、イエスカノーでは答えられず、問いの対象の精細な性質や挙動でもって答えられなければならない。その性質や挙動をくわしく述べた上で、かくかくの観点からはこれであり、しかしかの観点からはあれである<sup>4</sup>と答えるのである。そしてロボットは生きているか、という問いには、この型の答えはほぼ与えられているのではあるまいか。むしろ、このほぼ<sup>e</sup>シヨウ知されている答えの上に、タイプを誤った問いが問われているのが、このロボットの生命の問題だといえよう。

(大森莊蔵「ロボットと意識」による)

注1 ビールス……ウイルスのこと。

注2 エンテレヒー……一九世紀ドイツの生物学者ドリユーシユが唱えた生命独自の現象を成り立たせる原理。

問一 ― 線部 a ～ e のカタカナと同じ漢字を用いるものを、各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a

- 1 2 3 4 5

a 示サ

- ① 友人をソソノカして犯罪に巻き込んだ。
- ② 独特な雰囲気をかもし出す話し方。
- ③ 簡単に言をヒルガエすのは良くない。
- ④ 諄々じゅんじゅんとサトしたが、伝わらなかった。

b ゼン次

- ① 建造物をつくったり修理したりすることを営ゼンと言う。
- ② ここ数年、その商品の売り上げは着実にゼン増している。
- ③ 由緒ある寺で、大がかりな追ゼン供養がおこなわれた。
- ④ 人前での振る舞いが堂々としていて、社長ゼンとしている。

c リユウ保

- ① 温泉宿での長逗リユウを、老後の楽しみにしていた。
- ② 源氏の嫡リユウで、名門の生まれらしい。
- ③ その事件は、日本資本主義の興リユウ期に発生した。
- ④ 仏像建リユウのために、各地をまわって寄付を集めた。

d 知ケン

- ① あの時あの人の、ケン呑まなまなざしが強く印象に残っている。
- ② メンバーの意気ケン昂たる表情に励まされた。
- ③ 会食での彼女の姿は、ケン啖家そのものだと思った。
- ④ 戦況把握のため、けわしい道を登って行き望ケンした。

e ショウ知

- ① 神仏に対する誓詞をショウ文と言う。
- ② この件については、十分なショウ察が必要である。
- ③ 人ショウ代名詞の使い方には誤りがある。
- ④ 時代を超えて継ショウウされてきた人形芝居。

問二

空欄

A

C

に入る語の最も適切な組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

6。

- |   |   |      |   |   |       |   |   |      |
|---|---|------|---|---|-------|---|---|------|
| ① | A | そして  | — | B | さらに   | — | C | けれども |
| ② | A | しかも  | — | B | もちろん  | — | C | たとえば |
| ③ | A | ともあれ | — | B | このほか  | — | C | なぜなら |
| ④ | A | さらに  | — | B | 言うなれば | — | C | ところで |

問三 — 線部1「はにかみ」の意味として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

7。

- ① とまどうこと
- ② 悲しむこと
- ③ 心から喜ぶこと
- ④ 恥ずかしがること

問四 — 線部2「これら無数の現象の総体<sup>、</sup>が、生きた猫と猫の死骸とを区別する」とあるが、この部分について筆者の

考えと合致するものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 8。

- ① 猫の生命活動はみな心臓の動きに依存するので、心臓の動きがなければ猫は「生きている」とは言えない。
- ② 猫の血流の有無は猫の心臓の働きに依存しているので、その血流の有無は猫の生死を区別する要因とはなり得ない。
- ③ 猫の心臓の動きが止まり無数の生命の現象が止まったことをもって、猫は「生きていない」と言うことができる。
- ④ 猫の心臓を止め人工心肺で維持した生命は猫特有のものではないので、猫が「生きている」とは言えない。

## 問五

——線部3「『生きている』ということもまた一つのゲシユタルトなのである」とあるが、具体的にはどういふことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 9。

① 細胞や蛋白質分子などの生物の構成部分は絶えず変化しているため、「生きている」と「生きていない」の境界が明確でなくなる。

② 各生物にはその生物固有の「生き方」があるので、人工的な定義を置くことなく、生死の境界を明確にすることができるとができる。

③ 各生物の「生き方」には明確な違いがあるが、それらの生命現象には運動や代謝、生殖といった共通項目があるため、生物ごとに異なる生死の境界が明確でなくなる。

④ ある生物の生命現象の総体に細胞や蛋白質分子の働きまで含めると、いかなる方法によっても生死を区別することができなくなる。

## 問六

——線部4「ロボットの生命の問題」とあるが、ロボットの生命に関する筆者の考えに最も近いものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 10。

① ロボットには運動や代謝、生殖といった「生物」の刻印がないため、「生きている」とは言えない。

② ロボットを構成する部品の動きは他の生物と違って、「生きていない」か「生きていない」かの区別がつかない。

③ ロボットの生命に関する判断は各人に任されており、ロボットが「生きている」と判断する明確な基準はない。

④ ロボットにはロボット特有の「生き方」があると認め、人間や他の生物と完全に同じ状態で「生きている」ものと判断する。

## 第二問

次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

高度に専門化した知識の体系として、医療もまた排他的な共同体の価値観を持って発達してきました。むしろ患者という一般生活者に対し、すべての点で圧倒的ユウ位<sup>a</sup>にあるという価値のみが、内外に認められてきたといつてよいでしょう。その医師・患者関係が見直されなければならなくなったのには、いくつかの理由があります。

第一に、社会における疾病構造の変化があります。

イギリスのある疫学者は、文明の進捗の度合いに見あった社会の疾病構造の変化について、次のような仮説を立てています。すなわち、文明の第一段階にある社会では、主たる死因は「消化器系の感染症」である。第二段階に進むと、それは「呼吸器系感染症」に変化する。第三段階では、人々の多くが「生活習慣病」に悩むことになる。そして最終段階では、「社会的不適合」による死が主役になるだろう、というものです。

WHOの二〇〇一年度の統計でみると全障害に対する脳神経障害の比率が、アフリカー八パーセント、東南アジア二七パーセントに対して、米国とヨーロッパでは各四三パーセントと突出して高く、つまり第四段階の状況を鮮やかに示していると考えられます。

日本の疾病構造の経年的変化をたどると、明治期に圧倒的な重みで社会を苦しめたのはコレラや疫痢・赤痢、つまり消化器系感染症でした。昭和期に入ると、結核や肺炎などの呼吸器系感染症が主役に躍り出てきます。もちろん、こうした変化は、ある部分は医療の進歩の結果であるにしても、たとえば上下水道の普<sup>b</sup>キユウなど社会的なインフラストラクチャーの整備が与<sup>あずか</sup>って力があつたと考えられます。戦後の一九五一年に結核、肺炎は主要死因の第二位、三位に退き、第一位は脳血管疾患が、そして四位に<sup>2</sup>が<sup>2</sup>んが台頭してきます。以下今日までが<sup>2</sup>ん、心疾患、脳血管疾患の三つが主要死因を占有しています。①いづれも、生活習慣病に属する疾病と言つてよいでしょう（一時期はトップ五から消えていた肺炎が四位に定着している理由は、生活習慣病を抱えた高齢者がそれらの治療を継続しつつ、しかし直接の死因としては肺

炎という形をとることが多いためと推測されます)。

また、高齢者人口の総人口に対する比率は一九五〇年に五パーセントだったが、わずか六十年で二二パーセントに急増しています。これは、主要死亡原因の感染症から成人病<sup>（注）</sup>への移行と同時に進行しているわけですが、医療がこれらの変化をもたらしたのと同時に、これらの変化が医療にもたらした影響もかなりあります。

これらのデータと、先の疾病構造の変化に関する仮説とを重ね合わせてみると、

A
---

、と考えられます。それでは、このことは何を示しているのでしょうか。

感染症の場合には、医師と患者の関係は対等ではなくても、それなりに医療は成り立っていました。感染症における治療の目標は、体内の病原体を叩くことと明確に決まっています。患者は点滴や注射<sup>c</sup>、あるいは投薬など、医師の裁量がよく見える範囲で治療を受け、抗生物質や化学療法<sup>c</sup>の進歩とあいまって、病気から解放されることが可能になりました。

② しかし、生活習慣病の場合はどうか。がんの場合はやや性格が違いますが、多くの生活習慣病は、いったん発症すれば患者は文字通り「死ぬ」<sup>3</sup>までその病気を引きずっていかねばなりません。もともと遺伝的な要素（多因子的）と、その個人が歩んできた生活の歴史との相互作用によって発症するこの種の病気は、発症後はその個人の「性格」のように、完全に変えることの不可能なものとして、どのような治療をホドコ<sup>d</sup>したとしても「根治」のおぼつかない性格のものです。

③ たとえば薬一つにしても、患者は社会の中で活動を続けつつ、自分で服薬をしなければなりません。④ いわゆるコンプライアンス（医療側の指示に従って服薬すること）を高めるために医療側も努力をし（たとえば「お薬手帖」の整備）、調剤薬局や薬剤師の役割も大切になりましたが、何と言っても薬をきちんと服<sup>o</sup>み続けるのは本人の意志にかかっています。あるいは、こうした病気には食生活や運動など日ごろの生活態度を改善することが症状を抑えるために決定的に重要で、それも医師や看護師の努力より、多く患者自身の意志と努力にかかっています。糖尿病では、すでにインスリンの投与

も自身でできるように なっています。

医療は根治を目指すのではなく、患者が病氣と共に生きるのを援助し、QOLの向上を目指していくこととなります。<sup>(注2)</sup>よく言われる「キユア（治療）からケア（看護）への変化」は必然的であり、われわれは医療が「援助サービス」であることを認識するべきだと思います。⑤

このように考えてみると、生活習慣病が主役となるような社会では、医療行為のなかに、患者の役割が極めて重要なものとして浮かび上がってくるのが判るでしょう。医療の最終的裁量権は医師にあったとしても、その医療行為を「実行」するのは、医師や看護師、薬剤師などの専門家だけではなく、患者自身やその家族もまた、その治療行為の **B** として本質的な役割をニナっているのです。

今日、「インフォームド・コンセント」や「患者の自己決定」という言葉をよく耳にするようになりました。インフォームド・コンセントは本来、あらゆる契約にともなう、事前の正しい情報提供がなされたうえで合意することを指していますが、日本では医療に特化されて使われることがふつうです。

医師は統計的知識をもとに、「あなたの病氣は今までに○○例の症例がある疾患で、五年生存率は○○パーセントで、治療法は○○がいいとされています」といった説明をしがちですが、患者にとっては自分は統計の中の一例ではないことを、医師は理解するべきです。治療にあたって、決まった治療をすればいいと考えるのではなく、どの患者に対すると <sup>4</sup> きも、<sup>4</sup> 初めての症例を扱っているような意識が必要です。薬の「成人投与量」をそのまま老人に投与したらかえって悪化するような場合だつてあるわけで、患者一人一人にあった治療法を考えなければいけません。

これからの医療では「患者が主役」であり、医療従事者は、患者にシンパシーを持つことが重要です。シンパシーというのは、もともと「痛みの共有」という意味で、患者が何を感じているのか理解する、共感するということです。患者は、自分が何を感じているのか、嬉しいのか悲しいのか、痛いのか、苦しいのか、といったことを率直に言わない、あるいは言えないことが多いので、医療従事者は患者の言うことの背景を読み取る必要があります。医学生は訓練生として早くか

ら医療現場に接すること (early exposure) が有効でしょう。「医療のヒエラルキーのトップである医師」になるという意識で医療現場に出るのではなく、単なる学生として現場の雑役を経験することが必要です。あるいは、ロールプレイで患者になってみるというのでもいい方法だと思います。とにかく、C、というのがわからなければ医者とは言えません。

(村上陽一郎『人間にとって科学とは何か』による)

注1 成人病……生活習慣病の旧称。

注2 QOL……quality of lifeの略。生活の質。

問一 ——線部 a～e のカタカナと同じ漢字を用いるものを、各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a

11

・ b

12

・ c

13

・ d

14

・ e

15。

a ユウ位

- ① ユウ柔不断な性格を直す。
- ② 日本の将来をユウ慮する。
- ③ ユウ猛果敢に挑戦する。
- ④ 戦果を挙げて英ユウとなる。

b 普キユウ

- ① 経済的に困キユウする。
- ② 校舎が老キユウ化する。
- ③ 試験でキユウ第点をとる。
- ④ 悠キユウの歴史。

c 注シヤ

- ① 急なシヤ面を駆け上がる。
- ② すべての情報をシヤ断する。
- ③ シヤ沸消毒をする。
- ④ シヤ幸心があおられる。

d ホドコした

- ① 子どもの就学をシ援する。
- ② シ高の芸術。
- ③ 図書館シ書を務める。
- ④ 首相がシ政方針を示す。

e ニナつて

- ① 患者をタン架に乗せて運ぶ。
- ② タン念に盆栽を育てる。
- ③ 一タン家に帰って出直す。
- ④ 大タン不敵な面構えをする。

問二 — 線部1「それ」とあるが、その指示内容として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 16。

- ① 文明の進捗の度合い
- ② 社会の疾病構造
- ③ 文明の第一段階にある社会
- ④ 主たる死因

問三 — 線部2「がんが台頭して」とあるが、本文中の意味として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選

びなさい。解答番号は 17。

- ① がんの存在が際立って
- ② がんが最終的に登場して
- ③ がんの勢いが伸びて
- ④ がんがようやく現れて

問四 空欄 A に当てはまる最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

18。

- ① すでに日本では、二〇パーセントを超える高齢者が文明の第四段階に置かれている
- ② 現代の日本社会は、まさしく文明の第三段階から第四段階へ進もうとしている
- ③ 日本社会では現在、他国が経験したことのないほどの速さで高齢化が進行している
- ④ 日本における文明の発展段階の進捗とともに、死因となる疾病も変化してきた

問五 — 線部3 『死ぬ』までその病気を引きずっていかなければなりません」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

① 多くの生活習慣病は遺伝的な要素によってのみ発症するので、患者は生まれてから死ぬまで、自分の性格と同じようにそれと付き合わなければならぬということ。

② 生活習慣病に属する疾病の多くは根治する見込みがないので、患者は自分で薬を飲み続けるなどして、その疾病と共に生きなければならないということ。

③ 結核や肺炎、脳血管疾患等の病気では、完全に病気から解放されることはないので、患者は医療による援助サービスを受け続ける必要があるということ。

④ 食生活や運動などにかかわる生活習慣が原因となる病気の場合、患者は発症しないように死ぬまで意志的な努力をしなければならぬということ。

問六 空欄 B に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

20。

① 経験者

② 被害者

③ 指導者

④ 実践者

問七 — 線部4「初めての症例を扱っているような意識が必要です」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

① 統計にもとづく治療法が確立されていたとしても、医者はそれぞれの患者に配慮した治療をする必要があるから。

② 豊富な経験と統計的知識をもとに患者の治療に当たる場合であっても、医者は初心を忘れるべきではないから。

③ インフォームド・コンセントを基調とした医療においては、医者は患者に対して最大限の敬意を払うべきだから。

④ これからの医療では患者が中心となるので、医者は患者の要求をできるだけ治療に反映させる必要があるから。

問八 空欄 C

は 22 に当てはまる表現として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号

① 医者も患者も人間である

② 治療法は一つではない

③ 患者とはどういうものか

④ 現場の一体感が大切である

問九 次の一文が入るべき箇所を、本文中の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 23。

つまり、こうした感染症治療においては、患者の側の治療への参加の余地はほとんどありません。

問十 本文の内容に最も合致しているものを、①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① 患者が主役となるこれからの医療においては、医療従事者の裁量は最小限にとどめ、治療に対する患者の裁量を大幅に認めていくことが求められる。
- ② 文明の進捗によって死因となる疾病も変化し、最終的には社会不適合による死が中心となるといふ仮説は、日本の疾病構造を分析することにより証明された。
- ③ 共同体的な価値観にもとづいて規定されてきた医師と患者の関係が、近年見直されるようになった背景には、社会における疾病構造の変化がある。
- ④ 文明の第四段階に入った日本社会では社会への不適合感が増してくるので、医療においては患者の自己決定をあらゆる領域で尊重しなければならない。

## 第三問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もともと、「人はなぜ働かなくてはならないのか」という問いには、あるネガティブな動機、働くこと自体への懐疑感情といったものが拭いがたくまといっている。というのも、実際、働くことにはさまざまなつらさがつきものだからである。ある者は、肉体的な労働のきつさを訴える。またあるものは、組織のなかで、上司の納得できない命令に従わなくてはならない理不尽さをいう。「なぜ働かなくてはならないのか」という問いのなかには、これらの「労働の苦痛に対する不条理感覚」が複合的に織り込まれている。

この不条理感覚が鬱積すると、「なぜ働かなくてはならないのか」という問いは、「あくせく働いたってばからしいだけだ。金さえあつたらとつくに仕事なんか辞めてやる」という否定的なバイアスを強く帯びるようになる。

この問いに、そうした否定的なバイアスがかかる事情は十分に納得できる。しかし、先に述べたように、人は有り余るほどの金を手にしても、必ずしも働くことをやめようとはしない。<sup>(注)</sup>その理由をあくまで論理的に突き止めようというのが私のここでの意図であるから、こうした否定的なバイアスをかけてこの問いについて考えることをいったんは断ち切らなくてはならない。そのためには、もっと単純に、「なぜ人は働くのか」というように問いのかたちを変えることが適切であろう。

しかしそうすると、また、一つの答えが頭を擡<sup>もた</sup>げてくる。それは、「好きな仕事に就くことで、人生の充実を味わえるからだ」というものだ。だが、この答えは明らかに不十分である。なぜなら、「好きな仕事」に就けるわけではないし、たとえばはじめは「好きな道」と踏んである仕事に飛び込んだとしても、どの道であれ、働くことのつらさはついてまわるし、実際には、「いやいやながら」という感情を押し殺しながら日々の仕事をやり過ごしている場合のほうが圧倒的に多いからである。

世の中の多くのメディアは、「生き生きと働いている」人たちをことさらクローズアップし、「こんなに个性的で自分を

実現できる生き方がある」といった情報をこれでもかこれでもかと私たちに焼き付けようとする。それは、勤労意欲を減退させた人たちや、仕事に生き甲斐を見いだせなくなった人たちに対する一種の慰め、元気づけ、勇気づけを動機としていて、そのかぎりでは、善意にもとづいているということがわからないではない。しかし、労働現場でのさまざまなつらさを実感している多くのの人にとっては、それによってよい刺激を与えられる場合よりも、かえって、「ああいうのは、しょせんは選ばれた人たちの、しかも、いいところだけを抽出してスポットを当てているにすぎない」という白け感覚やルサンチマンを増大させる逆効果のほうが大きいと思う。若者に「生き方の夢」を与えるのは必要なことだが、同時に、あらゆる仕事に伴う苦勞もきちんと伝えるのでなければ意味がない。つまり、「好きな仕事を好きなように追求するのがいい」といったコンセプトによって労働の意義を根拠づけようとすることは、えてして理想と現実との乖離感をかき立てる結果になりやすいのである。これでは振り出しに戻ってしまう。

では、労働の意義を「モラル」に求める考え方はどうだろうか。「働かざるものは食うべからず」「勤勞は、それ自体が美德なのだ。忘れてふらふらしているやつはろくなことをせず、社会に害毒を流す」「小人閑居して不善をなす」云々。

しかし、私は、これもまた別の意味で不十分であると考ええる。というのは、およそある道徳観念というものは、それだけとして絶対的に（自己原因的に）成り立つものではなく、むしろ人間どうしの欲求や行動の交錯が生み出してしまう秩序の混乱を避けようという必要から二次的に考案された知恵に他ならず、それを純粹かつ教条的に通そうとすると、必ず、人間の活動実態との間に無理な齟齬を生み出してしまうからである。この場合でいえば、過度な勤勞道徳によって人間の労働の意義を根拠づけようとすると、そこにはかえって強制感と抑圧感がつきまとうことになり、再び「なぜこんなにあくせく働かなくてはならないのか」という疑問を強く導き出してしまふ。

人間の欲求や行動形態と、その道徳観念との間に幸福な一致が見られる場合は問題がない。だが、えてして、道徳観念がことさら強く意識されるのは、かえって、それまで自明なもの<sup>2</sup>とされていた無意識的な規範感覚が崩れて、あちこちでほころびを見せ始めていることを示している証拠である場合が多いのである。つらさがつらさとして、不条理感覚が不条

理感覚として広がれば広がるほど、その分裂を抑えるために、道徳観念が、ときにはヒステリックなかたちで対立物として立ち現れるのだ。

以上のように考えてくると、「人は働くことが好きなのだ」という欲望論的解釈や、「労働は美德である」という道徳観念が、労働の意義を支える究極点ではなく、むしろ逆に、個人の自然本性（好きな道だから働く）でも道徳観念（人は働くべきだ）でもない何か、私たちの「働きたい」という欲求や「働くべきだ」という道徳を支えているととらえたほうがよい。

私はこの問題を次のように理解する。労働の意義を根拠づけているのは、私たち人間が、本質的に社会的な存在であるという事実そのものである。

労働が私たちの社会的な存在のあり方そのものによって根源的に規定されていることには、三つの意味が含まれている。一つは、私たちの労働による生産物やサービス行動が、単に私たち自身に向かって投与されたものではなく、同時に必ず、「だれか他の人のためのもの」という規定を帯びることである。

自分のためだけの労働もあるのではないか、という反論があるかもしれない。なるほど、ロビンソン・クルーソーの一人の孤立した個人の自給自足的労働を極限として思い浮かべるならば、どんな他者のためという規定も帯びない生産物やサービス活動を想定することは可能である。じっさい、私たちの文明生活においても、A など、部分的にはこのような自分の身体の維持のみに当てられたとしか考えられない労働が存在しうる。

しかし、そのようにして維持された自分の身体は、ほとんどの場合、ただその維持のみを目的として終わることはなく、むしろ今度はそれ自身が他の外的な活動のために使用されることになる。また自分自身を直接に養う労働行為といえども、そこにはそれをなし得る一定の能力と技術が不可欠であり、それらを私たちは、ロビンソン・クルーソー的な孤立に至るまでの生涯のどこかで、「人間一般」にどこしうるものとして習い覚えたのである。自分自身を直接に養う労働行為において、私たちは、「未来の自分」「いまだ自分ではない自分」を再生産するためにそれを行うのであるから、いわば、自

分を「他者」であるかのように見なすことによってそれを実行しているのだ。自分一人のために技巧を凝らした料理を作ってみても、<sup>3</sup>どことなくむなししい感じがつきまとうのはそのゆえである。

さらに、私たちは、資本主義的な分業と交換と流通の体制、つまり商品経済の体制のなかで生きているという条件を取り払って、たとえば原始人は、閉ざされた自給自足体制をとっていたという「純粹モデル」を思い描きがちである。だが、いかなる小さな孤立した原始的共同体といえども、その内部においては、ある一人の労働行為は、常に同時にその他の成員一般のためという規定を帯びていたのである。つまり、ある一人の労働行為は、彼が属する社会のなかでの一定の役割をになうという意味から自由ではあり得なかった。

労働の意義が、人間の社会存在の本質に宿っているということの第二の意味は、そもそもある労働が可能となるために、人は、他人の生産物やサービスを必要とするという点である。これもまた、いかなる原始共同体でも変わらない。実際に協業する場合はいうにおよばず、一見一人で労働する場合にも、その労働技術やそれに用いる道具や資材などから、他人の生産物やサービス活動の関与を排除することは難しい。すっかり排除してしまつたら、猿が木に登つて木の実を採取する以上の大したことはできないであろう。

そして第三の意味は、労働こそまさに、社会的な人間関係それ自体を形成する基礎的な媒介になっているという事実である。労働は人間精神の、身体を介してのモノや行動への外化・表出形態の一つであるから、それははじめから関係的な行為であり、他者への呼びかけという根源的な動機を潜ませている。

人はそれぞれの置かれた条件を踏まえて、それぞれの部署で自らの労働行為を社会に向かって投与するが、それらの諸労働は、およそ、ある複数の人間行為の統合への見通しと目的とを持たずにはばらばらに存在するということはあり得ず、だれかのそれへの気づきと関与と参入とをはじめから「当て」<sup>4</sup>にしていく。そしてできあがった生産物や一定のサービス活動が、だれか他人によって所有されたり消費されたりすることもまた「当て」にしていく。他人との協業や分業のあり方、またその成果が他人の手に落ちるあり方は、経済システムによってさまざまであり得るが、いずれにしても、そこに

は、労働行為というものが、社会的な共同性全体の連鎖的關係を通してその意味と本質を受け取るという原理が貫かれて  
いる。労働は、一人の人間が社会的な人格としてのアイデンティティを承認されるための、必須条件なのである。

(小浜逸郎『人はなぜ働かなくてはならないのか』による)

注 この前に、筆者は「たとえばビル・ゲイツはいうにおよばず、タイガー・ウッズやイチローなども、若くしてすでにその資産は相当のものがあろうが、彼らもけっして働くことをやめようとしな」と述べている。

問一 ――線部1「教条的」の本文中における意味として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 25。

- ① 特定の考えを絶対的なものとして、現実に対応させて適用すること。
- ② 特定の考えを絶対的なものとして、機械的に適用しようとする事。
- ③ 特定の考え以外の考えを排除しつつ、その意味づけに努力すること。
- ④ 特定の考え以外の考えを排除しつつ、丁寧に内容を相手に教えること。

問二 — 線部2「自明なもの」とされていた無意識的な規範感覚」の説明として最も適切なものを、次の①～④のうち

から一つ選びなさい。解答番号は 26。

- ① 人間にとって、労働することが当然であって、そのことを誰も改めて問い返さない状態であるために、改めて強調することもまた考えられないという感覚。
- ② 人間にとって、労働することが当然であって、しかもそのことを誰も信じて疑ってはならず、その大切さを感ぜない人々は排除すべきだという感覚。
- ③ 人間にとって、労働することは不条理だという感覚はありながらも、その不条理さを訴えることは社会の雰囲気許さないので、黙って従っておこうという感覚。
- ④ 人間にとって、労働することは不条理だという感覚はありながらも、働いている最中にそれを疑えば労働の意欲が減退するため、意識下に押しとどめておこうとする感覚。

問三 空欄 A に入る最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 27。

- ① 商業経営など自営による家族の扶養
- ② 自宅における封筒はりの内職
- ③ 趣味や教養のための読書習慣
- ④ 一人暮らしにおける家事労働

問四 — 線部3「どこことなくむなししい感じがつきまとう」の理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから一

つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① われわれが労働するのは、次の労働につながるような自分を作るためであって、自分のために料理を見栄えよくするよりも、栄養面などから身体を気遣うことの方が大切だから。
- ② われわれが労働するのは、次の労働につながるような自分を作るためであって、自分のために見栄えのする料理を作っても、それを賞賛してくれる人など存在しないから。
- ③ われわれが労働するのは、次の労働につながるような自分を作るためであって、見栄えのする料理を作っても、その受け手が自分では次の労働につながったとは感じられないから。
- ④ われわれが労働するのは、次の労働につながるような自分を作るためであるが、技巧を凝らすことが労働に役立つわけではないことを誰しもがうすうすと感じ取っているから。

問五 — 線部4「当てにしている」ことの内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解

答番号は 29。

- ① 人間の労働行為には必ず受け手がいなければならず、労働する者はみな、今は誰だかわからない受け手を想定しながら労働を遂行すること。
- ② 人間の労働行為には必ず受けがいなければならず、しかも労働の送り手とある特定の受け手のあいだには労働行為の意味に関する一定程度の共通認識が必要だということ。
- ③ 人間の労働行為には必ず受けがいなければならないが、送り手と受け手の関係は「当てにしている」程度のもろいつながりによって保たれているということ。
- ④ 人間の労働行為には必ず受けがいなければならず、その受け手がさらに下の受け手へと労働の結果をつなげていくことで関係的な行為としての労働は成立しているということ。

問六 筆者の主張として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 30。

① 金銭に対する欲望、道徳心、人間の自然本性に労働の意義を求める考え方は、労働への懐疑感情を背後に隠し持っている点で不適切なものである。原始的な共同体による労働が営まれていた時代から、われわれ人間が互いの労働を承認することで社会を成立させてきたことを改めて確認すべきである。

② 労働という行為に道徳的な意味を見いだすことは、現に営々と働いている人々のアイデンティティを充足する意味で重要である。しかしその反面、道徳観念がいったん崩れてしまえば、人々は労働に対して嫌悪感を抱くことになるという危険性も存在している。

③ 社会的な意味を持った労働の三つの意味は、要約すれば人のために労働する、また自分自身も人の労働を必要とする、他者への呼びかけということである。これを突き詰めて考えれば、人々は他者とのつながりのなかでしか自分のアイデンティティを確認できないということである。

④ 金銭に対する欲望、道徳心、人間の自然本性など、個人的充足に労働する意義や理由を求めるのは不適當である。労働という行為は社会的な性質を帯びるものであるから、社会的地位と関わる充足感こそが労働する意義や理由なのである。